

# トップバリュ(安全・安心)



イオンのプライベートブランド「トップバリュ」は、お客さまの声を活かす衣食住ブランド。お客さま視点の商品をご提供し続けるため、食品をはじめとして「安全・安心」の確保に取り組んでいます。

## 1993年～ トップバリュ グリーンアイ

安全・安心な農・水・畜産物を食卓へ。

「トップバリュ グリーンアイ」の農・水・畜産物は、自然の持つ力を最大限に生かして生産され、地球環境にやさしいことをコンセプトにしています。厳しい自主基準を設けて、食の安全・安心をめざしています。



### 「トップバリュ グリーンアイ うなぎ蒲焼」の安全・安心への取り組みとお客さまの声



#### 生産者の声

薬を使わない養殖は前例のない試み。8年前にイオンの担当の方から、「抗菌性物質を一切使用しない鰻の養殖はできないか」と相談を受けたことが始まりです。水質や餌の量、そして鰻の様々な変化に気を配り、試行錯誤の結果、薬を使わない養殖に成功しました。タレにも合成添加物は一切使っていません。



山田水産株式会社 鰻事業部 養鰻チーム マネージャー 加藤尚武 様

#### 担当者から

基準を厳しく、製造過程も厳しくチェック。厳しい基準を設け、パートナーである生産者の協力をいただき、安全・安心な商品を製造しています。委託するだけでなく監査も行い、イオンは製造過程にも責任を持ちます。また、生産履歴などの情報開示も積極的に行い、安全・安心を実感していただける環境を整えています。



イオントップバリュ株式会社 トップバリュ商品本部 生鮮商品部 須長裕幸

#### お客さまの声

イオンのおかげで鰻がまた食べられるように。化学物質過敏症の私は、食品の保存料や着色料に反応するため、安全な食品を手に入れるのは大変です。好物の鰻も諦めていたのですが、「トップバリュ グリーンアイ うなぎ蒲焼」は、化学物質を使用していないので、美味しく食べられました。イオンにはこうした食品をもっと増やして欲しいですね。



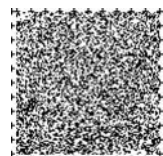
村田知章 様 ※症状は個人によって異なるため、「トップバリュ グリーンアイ うなぎ蒲焼」が全ての化学物質過敏症の患者さまに安全とは限りません。

## 2003年～ イオンサプライヤーCoC(取引行動規範)

製造過程にも責任を果たすために。

イオンはお客さまに安全・安心をお約束するため、「トップバリュ」の製造過程においても社会的責任を果たすべきと考えています。2003年から、製造委託先を対象に独自の「イオンサプライヤーCoC(取引行動規範)」を設けて、遵守を要請しています。

その要求内容は国や地域の法令を遵守することを基本に、従業員が安全で健康な職場環境において、人権が尊重され、適切な賃金が保証されていることなど13項目に及びます。これまで製造委託先約500社に説明と遵守の要請を行い、500社から遵守の宣言書をいただいています。



HP **イオンサプライヤーCoC** <http://www.aeon.info/> → 環境・社会貢献活動 → イオン 環境・社会報告書 → イオンサプライヤーCoC

HP **SA8000** <http://www.aeon.info/> → 環境・社会貢献活動 → イオン 環境・社会報告書 → SA8000

HP **国連グローバル・コンパクト** <http://www.aeon.info/> → 環境・社会貢献活動 → イオン 環境・社会報告書 → 国連グローバル・コンパクト

# トップバリュ(社会貢献)

お客さまから「日々の生活の中で国際貢献につながるように、イオンにパイプ役になって欲しい」というお声をいただいたことをきっかけに、フェアトレード商品を開発し、ご提供しています。

## 2004年～ フェアトレード

お買物を通じた国際貢献。

「フェアトレード」は、発展途上国で支援が必要な生産者と、原料や商品を労働に見合う価格で取引することで、生産者の経済的・社会的自立と環境保全を支援する活動です。イオンでは、日々の生活と社会貢献を結びつけるため、普段のお買物を通して気軽に国際貢献に参加していただける「フェアトレード」商品の販売を2004年から始めています。



国際貢献につながるフェアトレードの仕組み



## 1997年～ HIV/エイズ啓発活動 (株)イオンフォレスト

世界中の若い世代に向けたエイズ啓発。

1997年より、(株)イオンフォレストは、同社が展開している「ザ・ボディスヨップ」店頭で、エイズ啓発キャンペーンを展開しています。その一環として日本で始めた、音楽専門チャンネル「MTV」とのコラボレーションはグローバル規模に広がり、2008年には世界各地で「Get Lippy(ゲットリッピー)キャンペーン」が行われました。この活動は、HIV/エイズについて気軽に話す(リッピーになる)ことでエイズへの理解を広めること、若い世代へのエイズ啓発活動をサポートすることを目的としています。六本木ヒルズで開催した「Get Lippy カフェ」では、エイズ啓発のためのスペシャルトークショーを実施しました。

また「ガラナリップバター」の売り上げの一部と店頭募金の寄付を通じて、エイズ啓発団体をサポートしました。



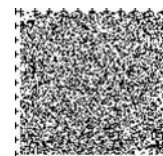
◎ガラナリップバターの売上から**5,198,400円**をステイニングアライブ財団に寄付。

◎店頭募金、その他対象商品の売り上げ**1,416,065円**をNPO法人「HIVと人権・情報センター」に寄付。

### 食品のフードディフェンスの強化について

2008年は、年初に発生した冷凍食品への農業混入事件以降、針などの危害物が食品に混入される事件が、イオンの店舗においても多数発生しました。イオンでは、食品売場の安全カメラを順次増設し、毎日の商品チェックを強化。従業員の防犯意識向上のための教育も実施して、防止対策に取り組みました。事件発生時には、警察や保健所に速やかに届け出るとともに、検針機による商品点検や、店頭POP・店内放送を通じたお客さまへの事実告知を行い、再発防止に努めました。一方、製造・物流についても、さらなる安全・安心の向上をめざし、メーカーとの情報共有や、自社物流センターにおけるセキュリティの向上に取り組みました。

イオンは食の安全・安心を守るために、今後も引き続きフードディフェンスを強化してまいります。



HP **お客さまの声を経営に活かす取り組み** <http://www.aeon.info/> → 環境・社会貢献活動 → イオン 環境・社会報告書 → お客さまの声を経営に活かす取り組み

# トップバリュ(環境)

地球温暖化などの環境問題が深刻化する前から、トップバリュはサブブランドとして「トップバリュ 共環宣言」を開発し、お客さまとともに環境負荷の低減に努めています。

## 2000年～ トップバリュ 共環宣言

環境にやさしく、経済的なくり返し使える充電電池。

「トップバリュ 共環宣言」は、リサイクル・クリーン・ナチュラルの視点で開発したエコロジー商品ブランドです。2008年5月には、「トップバリュ 共環宣言 充電電池」シリーズを発売。くり返し使用が可能なので、環境にやさしく、経済的です。

### 商品の特徴

- 約1,300回くり返し使えます。\*1(アルカリ電池1,300本分のゴミを削減)
- 1回あたりの1本の充電電気代が約0.1円。\*2(1,300回充電しても約130円)

\*1 JIS C8708 2007(7.4)の試験方法に基づく寿命の目安。(寿命は使用条件、機器により異なります)  
\*2 トップバリュ 共環宣言単3形充電電池2本を専用充電器で充電した場合の当社計算値。



単3形充電器セット

## 2006年～ MSC認証(海のエコラベル) / FSC認証

適正に管理された資源を使用。

世界的に減少傾向にある水産海洋資源を守るために、適切に管理された持続可能な漁業を認証するのが「MSC認証」です。海のエコラベルと呼ばれ、イオンではアラスカ産紅鮭、イクラなどを販売しています。

また、「FSC(森林管理協議会)認証」を受けた木材を原料としたノートなどを販売しています。伐採を厳しく管理された持続可能な森の木だけを使用しており、お買い求めいただくことは世界の森林保全に間接的に関与することにつながります。



海のエコラベル



アラスカ産・天然塩紅鮭



A4ノートブック



FSC認証マーク

# 食育活動

イオンでは、「食育」を全ての地域で進めていかなければならない大切な取り組みと考えています。グループ各社がお店を通して、地域に合わせた独自の取り組みを積極的に行っています。

## 2004年～ 産地ふれあい収穫体験ツアー

食の大切さを理解していただくために。

イオンリテール(株)は、自然に触れ、おいしさを体験することで、野菜・果物を食べることの大切さを学んでほしい、という思いから、「産地ふれあい収穫体験ツアー」を行っています。2008年は、農林水産省の補助事業として認可を受け、農林水産省の指導のもと、食育活動の一環である「教育ファーム」を取り入れました。実際に農林漁業を営んでいる方の指導を受け、作物を育てる体験を通して、自然の恩恵や「食」にかかわる人々の活動に興味を持ち、理解を深めることを期待しています。

### 「イオンの教育ファーム「イオンふれあい農場」」茨城県鉾田市で行われた大根栽培体験ツアー



1 2008年9月14日にジャスコ水戸内原店と茨城県内の他5店のお客さま親子15組30人で大根の種まきを行いました。



2 2008年12月7日にみんなで大根を収穫しました。



3 大根の収穫をがんばったみんなが集合!



4 1本100円～の大根を子どもたちが一生懸命売り込み、33,821円を売り上げました。

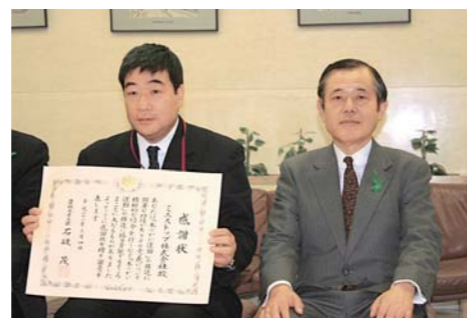
## 2006年～ 5円の木づかい ミニストップ(株)

日本の森林の健全なリサイクルと温暖化抑制をめざして。

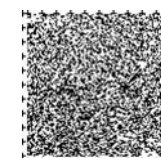
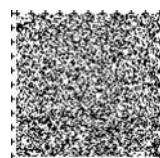
ミニストップ(株)が2006年から販売している「5円の木づかい」箸は、吉野(奈良県)産ヒノキの間伐材などから作られています。お買い上げいただいた5円の一部が、吉野地域の森林の育成を促進し、日本の森林の健全なリサイクルを取り戻すことにつながり、温暖化防止に貢献できます。



「5円の木づかい」箸



農林水産大臣から感謝状をいただきました



# ユニバーサルデザイン

## 1994年～ ユニバーサルデザイン

だれもが便利で快適に利用できる店舗づくり。

イオンは、「だれもが便利に快適に利用できる」ユニバーサルデザインを店舗づくりに積極的に取り入れています。1994年に施行された「ハートビル法(2006年よりバリアフリー新法\*)」に基づき、イオンでは独自の「イオンハートビル設計基準」を作成して、新店舗の建築や既存店舗の改築時に導入しています。2008年10月にオープンしたイオンレイクタウンでは、介助が必要な方、ご高齢の方、妊娠されている方、お子様連れの方など、すべてのお客さまに安心してご利用いただけるユニバーサルデザインに取り組みました。摂南大学・田中直人教授を中心に、越谷市の障がい者団体の皆さんや市民団体の方々とタウンミーティングを実施し、ハードな側面だけでなくソフトな側面までユニバーサルデザインを幅広く検討しました。

\*高齢者、身体障がい者などが円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律である、「ハートビル法」が2006年12月に「バリアフリー新法」に改定。

### イオンの「バリアフリー新法」認定施設の推移



2008年度は42施設で新たに「バリアフリー新法」の認定を取得しました。これまで572の施設が認定を受けています。



## AEON LakeTown



### イオンレイクタウンのユニバーサルデザイン

「迷わない」「使いやすい」「疲れない」「安心・安全」をコンセプトに、すべてのお客さまに心地いい店舗づくりをめざしています。

### 迷わない



**立体駐車場の大型誘導サイン**  
運転する人の見通しの妨げにならない、駐車場の壁を利用した大型の誘導サイン。誰にでも分かりやすいようにサイズにも配慮しました。

#### 館内案内

インフォメーションパネルは、現在位置を光が点滅してお知らせする分かりやすい設計になっています。



### 使いやすい



**身障者専用リモコン駐車場**  
登録された身障者の方にお貸しするリモコンでゲートを上げて入庫できる専用駐車場です。

#### 使いやすいトイレ

介助が必要な方にも使いやすいように、十分な広さや手すりなどの位置を考慮したトイレを用意しています。



### 疲れない



**エレベーター内の腰かけられる手すり**  
エレベーター内に腰かけられる手すりを設置しました。ショッピングで疲れないための人に優しいアイデアです。

#### 優先ベンチ

介助が必要な方、ご高齢の方などが優先的にご利用いただけるベンチです。ショッピングの合間の休憩に。



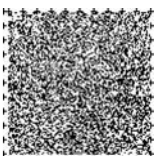
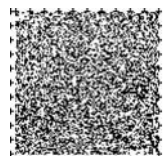
### 安心・安全



**誘導手すり付きエスカレーター**  
エスカレーターの昇降口には、足をつまずいたりしないように手すりを設けました。

#### 段差のない入り口

車椅子の方がスムーズに入館できるよう、すべての入り口に段差のないスロープを設けました。



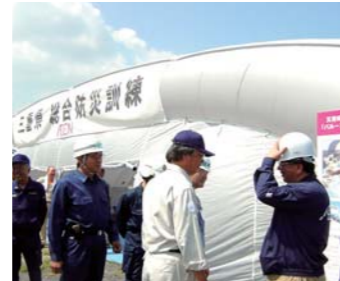
# 緊急時の対応

## 1978年～ 防災協定

### 地域と一体となった災害対策。

イオンの店舗は、災害などが発生したときも、地域の一人として行動することを基本としています。万一の際に地域の皆さまのお役に立てるよう、地方自治体と協力支援を約束する防災協定の締結を全国で進めています。

2009年2月28日現在、グループで1,046の店舗・事業所が防災協定を結んでおり、災害時の救援物資の供給、避難場所として駐車場の提供、防災訓練の共同実施など、地域の防災活動に協力しています。



三重県での防災訓練



大阪府泉南市での消火訓練

### 岩手・宮城内陸地震被災地へ救援物資を送付。

2008年6月14日に発生した「岩手・宮城内陸地震」の現地災害対策本部の要請を受け、イオン(株)、(株)マイカル、イオンスーパーセンター(株)の3社は、地域防災協定に基づき、水や食料などの救援物資を緊急手配し、宮城県栗原市と岩手県一関市に送付しました。

今後もイオンは、防災協定に基づき、各自治体の要請に応じて、グループの総力を挙げて復興に協力していきます。



「岩手・宮城内陸地震」被災地の栗原市の佐藤勇市長に義援金を渡すイオンスーパーセンター(株)岡崎社長。

### 地域貢献協定締結式



イオンモール筑紫野の開店に際し、筑紫野市と地域貢献協定を締結。この中で地域防災協定も締結。イオンモール(株)/イオン九州(株)



◎防災協定を全国566の自治体と締結。(2009年2月28日現在)

( )内数字は防災協定締結自治体数  
● バルーンシェルター配備場所



札幌市と「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結。防犯や防災の拠点に。イオン北海道(株)

## 2004年～ バルーンシェルター

### 災害時の緊急避難施設として。

イオンでは、地震などの際の被災者の避難スペースとして利用できる緊急避難用大型テント「バルーンシェルター」の配備を進めています。

設置を担当しているのは、グループのビルメンテナンスを手掛けるイオンディライト(株)。2008年度はイオンモール秋田、イオンレイクタウン、イオン各務原SC、イオンかほくSC、イオンモール草津、マイカル茨木、イオン日吉津SCの合計7店舗に配備しました。

これまで全国のショッピングセンターを中心に、計28カ所に「バルーンシェルター」を配備しています。



バルーンシェルター

◎全国、計28カ所に配備。

## 2003年～ 110番の店/セーフティステーション マックスバリュ中部(株)/ミニストップ(株)

### 地域の安全・安心を守るために。

マックスバリュ中部(株)では、2004年に三重県警察本部と「地域の安全を守る『110番の店』に関する協定」を締結しています。愛知県警察本部との相互協力により、店舗周辺で犯罪などが発生した場合、警察への通報や被害者の一時的な保護も行っています。

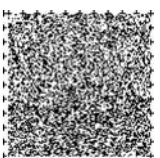
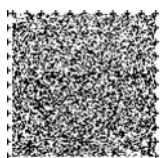
また、ミニストップ(株)は、2003年から社団法人「日本フランチャイズチェーン協会」に加盟するコンビニエンスストアと地域の警察、自治体の協力体制のもと、地域の「セーフティステーション(生活安全拠点)」活動に取り組んでいます。強盗や万引きなどの自主防犯体制強化とともに、災害や事故、急病人などの通報、女性や子どもの駆け込みへの対応などを行っています。



セーフティステーションポスター ミニストップ(株)



110番の店 マックスバリュ中部(株)



# イオンピープル

イオンピープルとは、イオンの従業員のことで、商品やサービス、接客を通して、イオンの理念を具体的に示し、環境・社会貢献活動を率先して実行するイオンのDNAを受け継いでいく人々です。

## 2003年～ イオン行動規範

「イオンの基本理念」を実現するための指針として。

2003年4月に制定した「イオン行動規範」は、イオンピープルが「イオンの基本理念」「イオン宣言」を実践していくうえで、取るべき行動を示したものです。この中には、「イオンピープルは、地域の発展を願い、よき企業市民として社会への奉仕につとめること」「お客さまの安全を最優先し、イオンだからできる安心を提供すること」を明文化しています。

「イオン行動規範」がイオンピープルに浸透していく中で、お客さまにイオンのお店を安心してご利用いただくために必要な資格の取得者が年々増えています。「すべてはお客さまのために」という理念は、イオンピープルー一人ひとりに着実に根付いています。



### イオン行動規範 宣言

- 一、イオンピープルは、常に多くの人々から支えられていることに感謝し、ひとときも謙虚な気持ちを忘れません。
- 一、イオンピープルは、人々との信頼をなによりも重んじ、いかなる時も正直で誠実な行動を貫きます。
- 一、イオンピープルは、お客さまの期待を感動に高めるため、常に自らを磨きます。
- 一、イオンピープルは、イオンの理想を実現するため、ためらうことなく変革への挑戦を続けます。
- 一、イオンピープルは、地域の発展を願い、よき企業市民として社会への奉仕につとめます。

## 2006年～ サービス介助士

正しい介助技術を接客対応に。

イオンは、介助が必要な方、ご高齢の方に安心してお買物を楽しんでいただくため、2006年より従業員の「サービス介助士」取得を推奨しています。建物や設備などハード面のバリアフリー対策だけでなく、正しい介助技術を身に付けることによる心のバリアフリーをめざしています。

「サービス介助士」とは、「おもてなしの心」と「適切な介助技術」を身につけるためのNPO法人「日本ケアフィットサービス協会」が主催認定する資格です。2009年2月28日現在、グループ各社のイオンピープル8,882名が「サービス介助士2級」を取得しています。



サービス介助士の認定証



全店の店長が「サービス介助士」を取得 イオン九州(株)



高齢者疑似体験研修 (株)マイカル

◎2008年度まで**8,882**名が「サービス介助士2級」を取得。

## 2007年～ 認知症サポーター

安心して暮らせる町づくりをめざして。

イオンは、2007年から高齢化社会への対応の一環として、厚生労働省とNPO法人「地域ケア政策ネットワーク」が推進する「認知症サポーター100万人キャラバン」に小売業として初めて全社的に参画しています。認知症を正しく理解し、認知症の方とご家族を適切にサポートするために、イオンピープル向け「認知症サポーター養成講座」を開催しています。

2008年度は浜松市・三重県・北海道の各地区や、新店舗オープン時の従業員教育として「認知症サポーター養成講座」を開催。2009年2月28日現在「認知症サポーター」は8,054名、養成講座の講師役を担う「キャラバン・メイト」は221名に達しました。



キャラバン・メイト養成研修 北海道(イオン北海道(株)、マックスバリュ北海道(株))



認知症サポーター養成講座 三重県(イオンリテール(株)、(株)マイカル、マックスバリュ中部(株))



認知症サポーターの目印「バッジ」と「オレンジリング」

◎2008年度まで「認知症サポーター」は**8,054**名、「キャラバン・メイト」は**221**名。

## 2008年～ eco検定

環境問題に率先して取り組んでいくために。

イオンは、イオンピープルの環境への意識向上と循環型社会構築をめざし、2008年度から新たに「eco検定(正式名称は環境社会検定試験®)」の受験を推奨しています。eco検定は、環境問題への幅広い基本的知識を有し、問題意識を日常の行動に活かす「人づくり」、そして環境と経済を両立させた「持続可能な社会」構築をめざして、東京商工会議所が主催する検定試験です。

合格者は「エコピープル」と呼ばれ、イオンでは2008年度1,903名のエコピープルが誕生しました。

◎2008年度は**1,903**名がエコピープルに。



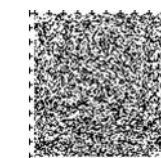
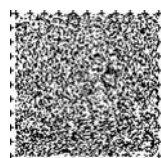
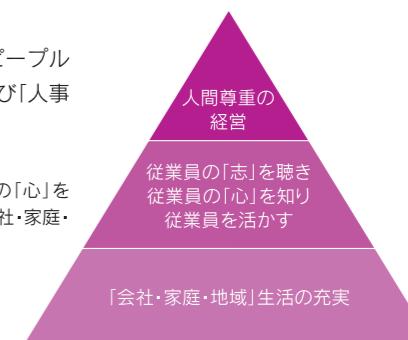
環境社会検定試験合格証

### 職場としてのイオン

イオンピープルー一人ひとりの「働きがい」に応えるために。

イオンは、2008年8月21日の純粋持株会社への移行に伴い、イオンピープルー一人ひとりの「働きがい」に応えることを目的に、再度「人事の基本理念」及び「人事の基本的な考え方」を確認しました。

- 人事の基本理念  
「人間尊重の経営」を志向するイオングループは、従業員の「志」を聞き、従業員の「心」を知り、従業員を活かすことを人事の基本理念とし、イオンピープルー一人ひとりの「会社・家庭・地域」生活をともに充実することを人事の行動理念とする。
- 人事の基本的な考え方
  - 継続成長する人材が長期にわたり働き続ける企業環境の創造。
  - 国籍・年齢・性別・従業員区分を排し、能力と成果に貫かれた人事。



# できることから いっしょに

## 1989年～ イオン1%クラブ

イオンは「環境保全」「国際的な文化・人材交流、人材育成」「地域の文化・社会振興」を柱に、良き企業市民として地域社会への貢献活動を推進するため「イオン1%クラブ」を設立し、「イオン チアーズクラブ」「学校建設支援」などの活動を行っています。

### イオン チアーズクラブ

子どもたちの健全な育成をサポート。

イオンでは2002年より子どもたちの健全な育成を目的に、イオンの店舗の周りでエコを中心とした活動を行っています。活動を通じて、環境に興味を持ち、考える力を育てるとともに社会的なルールやマナーを学ぶ機会になっています。2008年度は「太陽と自然」をテーマに活動を行いました。



イオン 富谷チアーズクラブ



イオン 新発田チアーズクラブ



イオン 苫小牧チアーズクラブ壁新聞

◎全国で**3,421**人の子どもたちが参加。

**160**クラブが活動を実施。(2008年12月31日現在)

### 学校建設支援

教育施設が不足している地域のために。

「学校に通える喜びを、子どもたちへ」をテーマに教育施設が深刻な地域で、学校建設を支援する事業を2000年より行っています。財団法人「日本ユニセフ協会」とのパートナーシップのもと、これまで、カンボジアで149校、ネパールで57校の学校を建設。たくさん子どもたちが通学しています。2006年から3カ年計画で行っていたラオスの学校建設は目標の100校を達成することができました。



以前の教室



新しい教室での授業風景

◎カンボジア**149**校、ネパール**57**校、ラオス**100**校、合計**306**校の建設を支援。

## 「エコロジー」と「エコノミー」の両立をめざして

イオンは2008年3月14日に、企業の成長と環境負荷低減の両立をめざし、「イオン温暖化防止宣言」を発表、2012年度までにCO<sub>2</sub>総排出量を2006年度比30%削減することを宣言しました。

2008年度は取り組み初年度として、グループ横断的な14のプロジェクトチームを結成し、CO<sub>2</sub>削減に向けたロードマップを作成、目標達成に向けた議論と対策の実践を開始しました。

部署や会社の枠を超えたメンバーがCO<sub>2</sub>削減について議論し、プロジェクトメンバー一人ひとりが、真剣に環境負荷の削減について考え悩みました。このような取り組みを受け、現場においても、従業員一人ひとりの意識が高まり、ハード面、ソフト面でのさまざまな活動が広がり、2008年度は削減目標を達成することができました。また同時に、電気代などのコスト削減効果を実感しました。このことが2009年度目標達成に向かう力となっております。

厳しい経済環境となりましたが、厳しいからこそ「エコロジー」と「エコノミー」の両立を図るべく、お客さまをはじめステークホルダーの皆さまとともに、2012年30%削減に向けてさらに努力してまいります。



イオン株式会社  
執行役 グループ環境最高責任者

土谷美津子

## イオン温暖化防止宣言 ～2008年度の進捗報告～

目標 「イオンは2012年度に2006年度比でCO<sub>2</sub>総排出量を30%削減する」

削減目標と主な取り組み

2008年度実績

